

株式会社中田商事

特定非営利活動法人スポーツクラブどんぐり

サッカーを通じた、子どもたちの 心身ともに豊かな人材育成

取材対応：株式会社中田商事 中田 純一 代表取締役、藪中 一真 さん、藤森 純子 さん

連携パートナー

◇企業：株式会社中田商事 (<http://www.nakata-shoji.co.jp/>)

運送業

◇NPO等：特定非営利活動法人スポーツクラブどんぐり
(<http://www.avenidasol.org/index.html>)

サッカーを通じて、人として地域社会で活躍し貢献できる人材の育成を目的とするNPO法人

連携内容

この企業はこのNPOの指導者を週に数日受入れ、指導者の経済的なサポートを行っている。その中で、サッカーの指導を通じた子どもたちとのコミュニケーション、職場でのコミュニケーションなど、異なる環境からの学びが、双方にフィードバックされている。また、この企業の代表がこのNPOの理事長も務めているところも特徴であり強みの1つだ。

背景

サッカーの指導を通じて、地域の指導者・保護者・子どもたちの意識が変わることで、地域が強くなるという思いと、代表の弟がプロサッカー選手で、引退後、地元である三重県で指導者を考える中で、サッカーを仕事として生活する環境がなかったことが、NPO法人(サッカースクール・サッカーチーム)の設立のきっかけとなった。



連携や活動をお聞きして…

このNPOは、サッカースクール・チームのコンセプト・理念を明確に打ち出して伊賀市でスタートした。設立当初は、元プロサッカー選手が指導することに対して、地域からの理解がなかなか得られなかった。だが、方針を明確にしていたことにより、地域外の方から共感や理解を得て、基盤を作りながら運営する中、結果を出すことにより、徐々に地域から認められるようになった。しかし、指導者は経済的な部分で厳しく、この企業がそこをフォローしている。双方に関わることで、会社(大人)もスクール(子ども)も抱える問題や課題はまったく同じで、コミュニケーションや情報伝達の問題など、改善策や対応策は双方向で共有し活用できることが、当初想定していなかったメリットだ。

また、サッカーの技術向上だけでなく、整理整頓やマナー、コミュニケーションの大切さなど、サッカー以外のことにも力を入れている。食事を通じた食べる大切もその1つだ。その中でも印象に残ったのが「ご飯を茶碗3杯食べなさい」という教えだ。決して食べる量を強制するものではなく、「1杯目は生きるため、2杯目は大きくなるため、3杯目は強くなる・上手になるため」という、きちんと食事をとらないと強く・上手くなれないという考えを意識づけるものだ。結果的に自信を持てるようになり、集中力UPの効果もあるそうだ。実際、夜更かしをしていた子どもが、夜更かしをしなくなり、学校の成績もUPしたというエピソードは、あらためて食べる大切さを実感できた。こうした教えを継続することで、保護者の意識も大きく変化し、スクールから家庭へという相乗効果も生まれた。最近では、地域の休耕田を借りてチームで田植え、稲刈り、収穫するなど、地域貢献活動もスタートさせた。

今では、県内7ヶ所でスクールを開催する規模にまでなった。これは企業経営者がビジネス感を持って運営することで、一般的には経営基盤が弱いとされるNPO法人であっても、きちんと運営ができるという良い事例だ。

最後にもう1つ印象に残った話がある。それはライバルチームからのスクール生の受け入れを許可していることだ。受け入れる場合は、所属チームの許可を得ているということを経験しているものの、ライバルチームが自分のチームより強くなる可能性もある。「そうになったら自分たちのチームがもっと強くなればいい」と、あっさり言われた。そうすることで、地域や三重県のサッカー界の底上げになるという考えだ。

取材を終えて、自分たちだけが良ければいいという考えでなく、地域やサッカー界全体を考えた取り組みだからこそ、子どもたちや保護者、地域からも必要とされる活動だとあらためて実感できた。